

平成 29 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

高校教育課

1 調査の対象校

- 県立高等学校 81 校（長野西中条校と篠ノ井犀峽校はそれぞれ 1 校としてカウント）
- 県立中学校 2 校

2 実施状況のまとめ

(1) 匿名性を担保した授業評価

() 内は H28 年度

		高等学校〔実施率 100%〕	中学校〔実施率 100%〕
今年度の実施回数	2 回	81 校〔100%〕(83 校)	2 校〔100%〕(2 校)
	1 回	0 校〔 0%〕(0 校)	0 校〔 0%〕(0 校)
実施校データ	回収率の平均	96.9% (92.0%)	96.0% (94.7%)
	自由記述欄への記載の割合	17.9% (17.3%)	37.8% (6.8%)
	集計のための人員・時間	平均 5.0 人 (5.8 人) 平均 11.3 時間(13.9 時間)	平均 8.5 人 (4.5 人) 平均 28.0 時間 (9.0 時間)

※原則として 2 回目のデータで集計

(2) 匿名性を担保した学校評価

() 内は H28 年度

		高等学校〔実施率 100%〕	中学校〔実施率 100%〕
今年度の実施回数	2 回	20 校〔24.7%〕(15 校)	0 校〔 0%〕
	1 回	61 校〔75.3%〕(68 校)	2 校〔100%〕
実施校データ	回収率の平均	生徒	84.4% (86.9%)
		保護者	65.9% (65.2%)
	集計のための人員・時間	平均 2.9 人 (2.2 人) 平均 6.3 時間 (10.7 時間)	平均 1.5 人 (1.0 人) 平均 13.0 時間(12.0 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 被評価者（各教科担任）が、授業の中で評価者（生徒）に対し、評価結果を受けての授業改善の方針や方法を説明。
- 学校評議員会やPTA総会等で集計結果を示し、前年度との比較を示しながら、特徴を説明。
- 授業評価結果のまとめを学校のホームページや学校だよりで公表。

【学校評価】

- 校長が全校集会（始業式、終業式）における校長講話で話題にする。
- 学校評議員会、PTA総会や保護者懇談会等で集計結果を示し、前年度との比較を示しながら特徴を説明。
- 学校評価結果のまとめを学校のホームページや学校だより、PTA会報などで公表。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 校長が各職員との面接時に評価結果を伝え、その後の授業改善に生かせるようにする。
- 校長による評価支援シートに関わる面接の資料として活用する。

【学校評価】

- 校長と生徒・保護者の意見交換・コミュニケーションツールとして活用。
- 職員が気づきにくい学校課題の把握に活用する。特に、いじめ等の生徒間のトラブルの発見に利用したり、教員の体罰事案の把握等、非違行為防止に役立てる。
- 学校の運営方針策定の資料として、学校目標の検討に活用し、問題意識の共有を図る。
- 学校の取組への肯定的な意見や感謝の声を、職員のモチベーション向上に役立てる。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- すでに学校に定着した取組となっているが、アンケートの集計に要する時間が課題となっており、ICT技術の活用など新たな集計方法を導入することにより、時間短縮の工夫・改善を図るなど、効率の良い実施方法について更なる研究が必要である。
- 保護者に対するアンケート回収率の向上を図るため、各校の実情に応じた工夫・改善をしてまいりたい（保護者懇談会時における協力要請等）。

平成 29 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

特別支援教育課

1 調査の対象校

- 県立特別支援学校 18 校

2 実施状況のまとめ

- (1) 匿名性を担保した授業評価（準ずる教育課程校 8 校中）（ ）内は H28 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	3 回	1 校	(1 校)
	2 回	2 校	(2 校)
	1 回	5 校	(5 校)
実施校データ	回収率の平均	97.1%	(96.0%)
	自由記述欄への記載の割合	約 33%	(約 31%)
	集計にかかった時間	平均 1.5 人 平均 2.6 時間	(1.5 人) (2.6 時間)

※ 2 回以上施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

- (2) 匿名性を担保した学校評価（県立特別支援学校 18 校中）（ ）内は H28 年度

		実施率 100%	
今年度の実施回数	2 回	3 校	(5 校)
	1 回	15 校	(13 校)
データ実施校	回収率の平均	80.3%	(79.3%)
	集計にかかった時間	平均 3.7 人 平均 13.4 時間	(2.7 人) (9.1 時間)

※ 2 回実施した学校については、原則として 2 回目のデータで集計。

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 回収した評価アンケートを集約した後、生徒説明用の資料を作成し配布して、担任から授業改善の方向を説明した。
- 評価結果について教頭や教務主任が考察と改善の方向を作成し、その内容に職員会で共通理解をはかり、その情報を生かしながら担任が授業を行った。

【学校評価】

- 評価結果（経年変化のグラフ化）とその分析及び改善の方向を担当者がまとめ、学校運営委員会、教務会、職員会等で共通理解した上、PTA 総会・PTA 懇談会・学校評議員会において校長や教頭が説明したり、学校便りやホームページで公表したりした。
- 評価結果と分析及び改善の方向を職員会にて教頭や教務主任が職員に説明した。

- 教務会にて参加した全職員で読み合わせを行った上で改善の方向を協議した。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 職員の校長面談の基礎資料とした。
- 各教科担任が、自由記述欄に記載されていた要望や課題を把握して授業改善を行った。
- 評価点の平均値を求め、値の少ない項目に関しては部会で原因を検討し、具体的な対応策を立案し子どもたちへの指導へ生かしてきた。

【学校評価】

- 学校評議員会で扱い、学校運営改善の意見をいただいた。
- 評価結果を次年度の学校グランドデザイン、職員研修、校務各係、各部運営等を検討する際の参考にした。
- 保護者の意見を基に改善を行った。(例：個別の指導計画の作成手順や様式改善の視点 支援会議の持ち方改善の視点 家庭便りの構造化 校内の照明の活用 等)
- 次年度の市町村懇談会の要望事項に反映した。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- A校の授業評価では、中間評価に比べ最終評価の「おおいにそう思う」が15%上昇した。これは、中間評価の内容を各担任が把握して授業改善につなげたり、担任が授業改善の具体を生徒に説明したりした成果と考える。このような取組を他校にも紹介し広げていきたい。
- B校では、グランドデザインの変更にもなって質問事項を整えた。経年変化が読み取れない短所はあるが、職員にとっては学校として向かっている方向を再確認できると共に、その年度を取組に関する評価を得ることができ、次年度への改善の視点が明確になった。質問事項については、今後も各校で柔軟に検討していく必要がある。
- C校では、アンケート内容の入力を意図的に各部の部長に分担した。それによって部長は、自分の部の保護者や職員の思いをより深く理解することができ評価を教育改善に反映することができた。集約・まとめ・公表等業務を誰がどのように行うことがよいのか、評価を学校改善に生かすという視点で、各学校で検討していく必要がある。
- 匿名性を担保することは評価者の思いを直に感じやすくなり有意義である。ただ、いただいた評価の中には施設面の改修に関するもの等、すぐに改善が難しいものもあり、これに対し保護者から「毎年アンケートを書いているが何も変わっていない」という評価もいただいている。今後も可能な限りの対応と改善した内容を分かりやすく丁寧に伝えていくよう努めていく必要がある。

6 参考（回収・集計のための工夫）

- Excelの集計表を使い、職員と保護者の評価を比較できるようにした。両者のずれを明確にでき改善の方策につなげられた。
- 無記名投票がしやすいように、保護者アンケートは封筒に入れて配布した。
- 生徒アンケートを実施する前に、校長が、「一緒にうちの学校をよくしよう。そのためにみんなの声を聞かせてください」と呼びかけた。
- 教頭が入力シートを作成し、各部長が入力して上書き保存するようにした。
- 参観日に回収し提出率の向上をはかった。

平成 29 年度 匿名性を担保した授業評価・学校評価の実施状況

義務教育課

1 調査の対象校

- 【授業評価】市町村（組合）立中・義務教育学校 184 校
- 【学校評価】市町村（組合）立小・中・義務教育学校 545 校

2 実施状況のまとめ

	【授業評価】		【学校評価】	
	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
授業評価・学校評価の実施	96.8%	100.0%	100.0%	100.0%
マークシートによる集計(併用含む)	17.8%	29.9%	10.0%	33.6%
①匿名による評価の実施	81.1%	98.4%	95.3%	100.0%
②段階的な評価の実施	99.4%	100.0%	100.0%	100.0%
③自由記述欄の設定	82.2%	99.5%	99.1%	100.0%
*①～③を全て含んだ評価の実施	66.1%	98.4%	94.4%	100.0%
評価結果の公表	92.2%	93.5%	100.0%	100.0%

3 評価者へのフィードバック例

【授業評価】

- 評価結果を教科ごとに検討し、改善の方向についてまとめたものを、生徒に直接説明したり、学校便りやホームページで公開したりしている学校が多い。
- 評価結果をグラフで視覚化する等わかりやすさを工夫したり、複数年度の経年変化を比較したりすることで、向上している点と課題として取り組んでいく点を情報提供し、学校・生徒・家庭が共通理解している。

【学校評価】

- 評価結果を教務会および職員会議で検討し、改善の方向についてまとめたものを学校便りとホームページで公開している。
- 第三者評価者に、集計結果と自由記述欄に書かれた意見を公開し、学校の改善策を含め説明した。出された意見を学校便り等で報告すると共に、次年度のグランドデザインに位置づけた。
- 課題と改善策だけでなく、よさを伝えて伸ばす取組もあった。学年や全校で高い評価となった項目を校長が始業式で伝えることで、学年・学校の特長となって活力を生んでいる。

4 評価結果の活用例

【授業評価】

- 教員が自分の授業評価を自分で分析することで、授業改善の方向について具体的で実現可能な改善プランの策定につながった。
- 生徒の評価結果と教員の自己評価結果を比較し、ズレに注目することで、行っている通りの授業改善を見直し、より実効性のある実践を考える機会となった。たとえば、「授業は生徒にとってわかりやすい」の質問に対し、生徒と教員は90%超だったが、保護者は70%にとどまったことを受けて、「わかりやすい」評価が高い教員の授業を見合う校内研修を実施したり、授業とリンクした家庭学習に切り替えたりする工夫を行った。

【学校評価】

- 自由記述欄があることで、学校職員が気付きにくい問題点や調査項目にないことがらへの意見が届き、学校運営の改善に役立った。たとえば、兄弟関係に配慮した小・中学校の参観日・個別懇談会等をずらすよう日程調整を行うようにしたり、逆に小中合同で保護者対象の研修会や懇親運動等を開催したりした。また、学校行事が縮減されていく状況に工夫改善を求める意見を受け、総合的な学習の時間と関連付けたコース別選択行事を実施することにした。
- 評価項目を継続し、経年変化を比較することで、前年度の課題を基に取り組んだ改善策がどのような結果となったかを考察できた。たとえば、卒業した先輩を招いての講演会や職場見学の発表会、地元企業によるキャリア教育の授業に継続的に取り組むことで、「計画的に進路指導・キャリア教育を行ってる」「卒業後の進路について考える機会が多い」の質問項目における肯定的な回答が3年間で70%から90%へと変化したことがわかり、取り組みの成果を確認することができた。
- 自由記述欄に記述された、保護者からのプラス面の評価をまとめ、職員会議で紹介した。学級担任や担当職員の意欲向上につながっている。

5 今後の課題

【授業評価・学校評価共通】

- 評価結果をどのようにまとめ、活用しているか、また、匿名で届いた意見のなかで、個別の事実確認や緊急性があった場合の対応について、課題と感じている学校が多い。どのような対応をしているか等について、好事例を紹介し、はたらきかけていく。
- 実施状況が向上し、匿名性を担保した評価をほぼ全学校で実現できた。次の課題として、回収率の向上、集計の効率化について、マークシート方式やWEBアンケート方式を採用している市町村を参考に、改善策を検討してまいりたい。